

コスモ石油エコカード基金

活動報告書

2014

第12期2013年4月1日～2014年3月31日

コスモ石油
エコカード基金

「ずっと地球で暮らそう。」

INFORMATION

1日1回インターネットから
募金ができる!

コスモ石油エコカード基金のクリック募金では、応援したいプロジェクトを選んでクリックすると、クリックの数だけコスモ石油がエコカード基金に寄付します(クリックは1人1日1回1プロジェクトまで)。2013年度は3,809,090回(=円)のクリックがありました。



<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/charity/>
ホーム>環境活動>クリック募金

モバイル版クリック募金はこちらから

モバイル版クリック募金には、コスモ石油公式モバイルサイトからも参加できます。



「コスモ石油エコカード基金」の
ホームページのご紹介

各プロジェクトの概要をお知らせするホームページとともに、現地視察のご報告や各プロジェクトパートナーから届いた日々の活動の様子などの情報をお届けする事務局レポート(ブログ)も更新していきますのでご覧ください。



コスモ石油エコカード基金活動紹介
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/>



コスモ石油エコカード基金事務局レポート
<http://cosmooil.info/>

新しいプロジェクトが 決まりました!

皆さまの寄付金により、2013年度は14プロジェクトを支援しました。
2014年度は新たに3プロジェクトが仲間入りしました。
これからも皆さまからの寄付金を、地球環境の修復と保全・次世代育成活動に役立てていきます。

新プロジェクト01
アフンの森で
自然体験!



一般財団法人
C.W.ニコル・アフンの森財団



自然とふれあう機会の少ない子どもたちや東日本大震災で被災した子どもたちが、自然とふれあい、自分らしく生きていくためのきっかけになる機会をつくっていきます。

新プロジェクト02
アカマツの林を
守ろう!



NPO法人
森のライフスタイル研究所



長野県伊那市の荒廃した「アカマツ林」14ヘクタールを生物多様性の調査をしながら、一般ボランティアの力で修復し育てていきます。

新プロジェクト03
南三陸町から
情報発信!



NPO法人
キッズドア



南三陸町が持続可能な循環型地域をめざすモデル地域であることを、地元の中高生が国内外に向け発信していきます。

新規プロジェクトの詳細な活動内容は2ページをご覧ください! →

理事長メッセージ

ずっと地球で暮らしたい、その想いを大切に

コスモ石油エコカード基金は、エコカード会員の皆さまからの年500円のご寄付をもとに、「国内外の環境修復と保全」と「次世代の育成」の2つを柱として、持続可能な社会の実現をめざし、国内外で活動するNPOなどのパートナーとともに「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開しています。

この「コスモ石油エコカード基金活動報告書2014」は、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの2013年度の活動をお伝えるものです。ご一読いただき、本基金の活動をご理解いただくとともに、アンケートにて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2013年度は、14プロジェクトを展開しました。そのうち「さとやま学校」と「南太平洋諸国生態系保全」、「ビオトープ浮島 水辺の生態系回復」の3プロジェクトは、それぞれの活動目標を達成し、2013年度をもってエコカード基金を卒業となりました。また、2014年度より活動を開始する3プロジェクトが決定しました。

新たに開始する「人と森をつなぐ」と「アカマツの森 里山再生」、「Meets Green 南三陸」の3プロジェクトは、子どもたちとの森での活動を通じた環境教育、リーダー育成、里山再生や東日本大震災からの復興をめざす若者の育成などを目的としており、持続可能な社会への貢献が期待されるプロジェクトです。

当基金では引き続き、各プロジェクトと基金の理念に賛同し支援して下さる会員の皆さまをつなぐ役目を果たしていきます。そのために、会員の皆さまにわかりやすく透明性の高い報告を行うことはもちろんのこと、インターネットを通じた情報発信に力を入れていきます。また、各プロジェクトを体験していただけるエコツアーも実施していきます。

今後とも皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コスモ石油エコカード基金
理事長

桐山 浩



新規プロジェクトが決まるまで

今回の新プロジェクトの公募にあたっては、2013年9月・10月に新規プロジェクトを募集し、11月から2014年1月にかけて選考しました。活動内容がエコカード基金のテーマである「国内外の環境修復と保全」および「次世代の育成」に合致し、エコカード会員向けエコツアーが企画できることも選考ポイントとしました。さらに基金事務局による審査と評議員へのヒアリングを経て、3プロジェクトを決定しました。



2014年度コスモ石油エコカード基金の新規プロジェクトは、厳正なる審査の結果、3プロジェクトが選ばれました。どのプロジェクトも、温暖化防止や生物多様性の保全といった環境問題への対応はさることながら、活動を通して、人づくり、次世代への教育といった側面が、大いに期待されるプロジェクトです。

コスモ石油エコカード基金 評議員 多田 博之
(環境 NGO: ジャパン・フォー・サステナビリティ理事長)



1つめのプロジェクト

人と森をつなぐ

パートナー：
一般財団法人 C.W. ニコル・アフアの森財団

C.W.ニコル氏が始めた「アフアの森」は、生きものに森づくりの評価をしてもらうという「自然との対話」によって管理されています。命の環で結ばれている豊かな森は、心も体もその本来の自分を取り戻せる力を持っていると考え、特に児童養護施設や障害のある子どもなど、自然とふれあう機会が限られる子どもの心を育む自然体験活動を行います。また、東日本大震災復興プロジェクトとして被災地での森づくり、森の学校づくりも進めます。

2014年度に取り組むこと

- ①盲学校や養護学校の子もたちをアフアの森に招待し、体験学習を行う
- ②東松島の子もたちを対象に、地域の自然のすばらしさを理解してもらうプログラムを行う
- ③野外活動の指導者をめざす人向けの講習会を行う
- ④エコカード会員向けエコツアーをアフアの森で行う

自然の中の遊びは、仲間と会話をし、協力をするというコミュニケーションの上に成り立っています。そして、五感を使うことで豊かな感性と想像力、元気な心を育てることができるのです。最初は簡単な事でも構わない。とにかく自然を“経験”してほしい。



理事長
C.W. ニコル氏

新規プロジェクトの紹介

2つめのプロジェクト

アカマツの森 里山再生

パートナー：
NPO法人 森のライフスタイル研究所

長野県伊那市周辺の松くい虫の被害を受けているアカマツの森を、生物多様性の調査をしながら、ボランティアをはじめとした皆さまの手で里山に回復させます。

2014年度に取り組むこと

- ①森林ボランティアをはじめとした皆さまによるアカマツ林4ヘクタールの整備(3年間で14ヘクタール目標)
- ②生物多様性の調査
- ③次世代を担う地域の小学生のための森林体験教室
- ④地域住民が自発的にアカマツ林の保護ができるようになるための森林整備学習会

私たちは、普通の人たちが当たり前のように里山に関心を持てる社会をつくることをめざすNPOです。このプロジェクトの目的は、アカマツ林に人の手を入れて昔の元気だった山に戻すこと。そして、アカマツ林ならではの、生物多様性の保全を行うこと。長野県伊那地域から始める活動を3年後には全国へと広げていきます。



代表理事
竹垣 英信氏

3つめのプロジェクト

Meets Green 南三陸

パートナー：
NPO法人 キッズドア

東日本大震災から自然環境との共生を軸とした復興に取り組む宮城県南三陸町で、中高生に地元企業の取り組みを学ぶ機会を提供し、将来の復興を担う人材を育成します。南三陸町で行っている復興の取り組みを地元と仙台市の中高生がフィールドワークなどで学び、インターネットを活用し、社会に向けて発信します。南三陸町の情報を継続的に発信することで、持続可能な地域の復興と環境保全をめざします。

2014年度に取り組むこと

- ①南三陸町の自然環境との共生を中高生が学ぶフィールドワーク合宿を実施
- ②フィールドワークで学んだことをレポートにし、地域など身近なところから発信をはじめ
- ③プロジェクトの発信ツールの運営開始(ホームページなど)

アジア地域から注目されている技術を使った環境にやさしい資源循環型のプロジェクトが南三陸町ではじまっています。復興の先に、どんな変化が生まれるのか、「体験」しながら継続的に関わることができるスタディツアーを行います。よりよい環境づくりと一緒に考えていきましょう！

事務局長 兼 東北本部長
片貝 英行氏



コスモ石油 エコカード基金

「ずっと地球で暮らそう。」 プロジェクトについて

コスモ石油エコカード基金では、「国内外の環境修復と保全」および「次世代の育成」をテーマに、持続可能な社会の実現をめざしています。

本基金で展開している「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトでは、「地球温暖化問題への取り組み」と「生物多様性の保全」という2つの分野について、環境問題には、貧困、食糧難、教育など、さまざまな社会的な課題が密接に関連しているという現実を踏まえ、本質的な問題解決に取り組んでいます。

各プロジェクトには、エコカード会員の皆さまから毎年お預かりしている500円の寄付とコスモ石油グループからの拠出金を、各プロジェクトの活動に応じて、支援金としてお渡ししています。

2013年度は14プロジェクトを支援しました。このうち3プロジェクトは目標を達成し、基金の活動としては終了となりました。また2014年度からは3プロジェクトが新たに加わり14プロジェクトとなり活動を展開します。

※収支報告の内訳は8ページをご覧ください。



2013年度のプロジェクト		
熱帯雨林保全 (バブアニューギニア)	熱帯雨林保全 (ソロモン)	シルクロード緑化 (中国)
南太平洋諸国支援 (ツバル)	南太平洋諸国支援 (キリバス)	秦嶺山脈 森林・生態系回復 (中国)
野口健 環境学校 (日本国内)	種まき塾 (北海道)	東日本大震災復興支援 森は海の恋人 (宮城県)
どんぐりの森 里山再生 (長野県)	ムササビとともに暮らす里山再生 (山梨県)	
2013年度の終了プロジェクト		
さとやま学校 (長野県)	南太平洋諸国生態系保全 (日本、南太平洋諸国)	ビオトープ浮島 水辺の生態系回復 (埼玉県他)
2014年度からのプロジェクト		
人と森をつなぐ (長野県、宮城県)	アカマツの森 里山再生 (長野県)	Meets Green 南三陸 (宮城県)

10周年記念企画

いのちとココロを育む 「種まき塾の里親プロジェクト」

富良野の「今」をお知らせします

2011年に1,352人のエコカード会員に参加していただいた「種まき塾の里親プロジェクト」。今年の春で約2年半が経過しました。ハルニレとエゾヤマザクラがどうなっているのか、種まき塾のスタッフが苗の成長ぶりを聞いてみました。(6月初旬取材)

教えて! ①

冬を越し、成長の具合は
いかがですか?

答え 春は低温の状態が続いていましたが、ようやく暖かくなり、葉が出て、順調に成長しています。葉が出ているものや芽が出ているものなど、状態はさまざまですが、ハルニレは20cm~40cmほど、エゾヤマザクラは40cm~70cmほどになっています。

教えて! ②

今後の作業はどのようなものを
予定していますか?

答え 春は低温でしたが、6月初旬の現在は、かなりの暑さと雨量不足になっています。除草作業と並行して日よけ対策や灌水作業を重点的に
行いつつ、管理しています。



ハルニレ



エゾヤマザクラ



プロジェクトの 2013年度取り組みレポート

より詳しい情報が掲載されています。
「コスモ石油エコカード基金」のホームページをぜひご覧ください。
<http://www.cosmooil.co.jp/kankyo/>



日本他：南太平洋諸国生態系保全 南太平洋生態系保全学術懇談会

生態系を守るための3年間の研究成果を発表会で発信しました。
南太平洋諸国政府関係者とも情報を共有しました。

本プロジェクトの最終年である2013年度は、ソロモンとパプアニューギニアの現地視察をしつつ、集中的に研究会を開いて成果をまとめ、2014年2月に成果発表会を開催しました。当日は同地域に関心がある方40人ほどが参加し、南太平洋諸国の課題と今後の可能性について情報を共有しました。2014年7月には安倍首相がパプアニューギニアを訪れ、同地域への注目は益々高まっています。エコカード基金での活動は終了となりますが、研究成果を役立てるべく、今後も情報発信を継続していきます。



現地視察先の村

中国：シルクロード緑化 NPO法人 2050

沙漠化防止のために、7万2千本の苗木を黄土高原に植林しました。
住民の植林への意識も向上しています。

シルクロードの地、中国の黄土高原で沙漠化を防ぐために、現地の気候に合う沙棘(サジー)の苗基地を作り、植林用の苗を供給しています。2013年度は甘肃省蘭州市で30ヘクタールの土地に7万2千本を植林しました。沙棘だけでなく、多様性を考慮して乾燥に強い松や柳も混植しました。また、当プロジェクトから派生した自主的な植林活動も盛んになり、現地の農家の植林に対する意識も高まっています。



根づいた沙棘は大きく育っています

ツバル：南太平洋諸国支援 NPO法人 Tuvalu Overview

海岸の浸食を防ぐために、3千本のマングローブを植え、
地元住民たちといっしょにごみを回収しました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、住民向けにごみ問題の啓発活動を行っています。2013年度はフナフチ環礁で約3,000本を植林しました。また、主に大人向けにごみ問題の啓発活動を実施しました。政府庁舎1階に廃棄物処理に関するポスターを複数掲示し、ワークショップも開催しました。11月には地域住民50人を集めて、清掃活動を実施しました。ツバル政府による収集車の協力もあり、1日でトラック12台分のごみを回収しました。



オリジナルTシャツを着てごみの分別と回収

パプアニューギニア：熱帯雨林保全 公益財団法人 オイスカ

熱帯雨林保全のために、住民たちの生活安定につながる
農業や畜産業、特産品づくりなどの講習会を開催しました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために農業・畜産業の技術指導をしています。2013年度は農業指導だけでなく、タロイモや玉ねぎ、ジャガイモの試験栽培、モリンガ(ワサビノキ)を使った畜産飼料の開発などの研究を行いました。また、現地の資源を活用した特産品として、藤製品づくりの研修を実施しました。この研修により、トライ族は消えかけていた藤加工の技術を後世に伝えることができ、また藤の産地のパイン族は自らの森林の価値を認識することができました。



モリンガの栽培研修

ソロモン：熱帯雨林保全 NPO法人 エービーエスディ (APSD)

熱帯雨林保全のために、食糧自給や現金収入につながる
有機農業の指導と蜂蜜製品の製造販売に取り組みました。

ソロモン諸島にて、熱帯雨林保全のため、安定した食糧自給や現金収入の確保をめざし、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2015年にはパーマカルチャーセンターを、現地人材で自主運営できるように動き出しました。2013年度は、JICAから派遣された専門家の指導を受けて「カエルコンポスト」と「マーケット生ごみコンポスト」を試験製造しました。さらに、特産品の開発とバリューチェーンの構築にも取り組みました。蜂蜜を商品化でき、首都のホテルやスーパーで主にお土産として販売されています。



蜂蜜を商品化

キリバス：南太平洋諸国支援 NPO法人 国際マングローブ生態系協会

海岸の浸食を防ぐために、9千本のマングローブを植えました。
住民による自発的な植林活動も広がっています。

地球温暖化による海面上昇の影響による海岸浸食を緩和するために、マングローブ植林を地元の若者や子どもたちとともに進めています。開始から9年が経過し、順調に成長した木は3~5メートルの高さになり、種子をつけはじめています。また、長年の活動の結果、マングローブ植林の重要性が認知され、地元では自主的な植林活動も広がっています。2013年度も、目標本数6,000本を大きく上回る9,820本のマングローブの種子を植えました。さらに、アナテ・トン大統領の強い要望を受けて、タラワ環礁以外でのマングローブ植林もはじまりました。



マングローブの木に登っての種子採取

中国：秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復 西北大学生命科学学院

キンシコウやジャイアントパンダが暮らす森をとりもどすために、
廃棄された林道10kmに8千本の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫であるシンレイ山脈において、動物の移動を妨げる使われなくなった林道へ植林することで、森の生物多様性を取り戻すプロジェクトです。2013年度は10キロメートルの道路に約8,000本を植林しました。定着率は約80%と高く、順調に緑化が進んでいます。高校や大学などでの環境講座を通じた次世代育成や、キンシコウの生態研究の支援も継続しています。



林道だった場所に穴を掘って苗木を植える

日本：さとやま学校 NPO法人 エービーエスディ (APSD)

小学生517人に環境教育ができました。里山での農業支援は、
販売・流通のルートが確立し、自立につながりました。

長野県飯綱町の里山での農地保全・耕作放棄地対策は、現地農家の代表が決まり、流通・販売の協働企業が決まったことで、生産から販売への自立した運営形態ができました。また、次世代の育成を目的とした環境教育を、東京都江東区の小学校5年生75人と3年生75人、神奈川県秦野市の小学校5・6年生315人、川崎市の小学校5年生52人に実施しました。2003年度に始まった本プロジェクトは、里山での取り組みが一定の成果を上げたことから、2013年度で終了しました。



昔の脱穀器具を体験

日本：野口健 環境学校 NPO法人 セブンサミッツ持続社会機構

富士山の登山と清掃を通じて「環境メッセンジャー」が
新たに8人誕生しました。

体験を伴った知識を持ち、自ら環境に対するメッセージを多くの人に発信し、行動できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に「環境学校」を開催しています。2013年度は高校生・大学生など8人を対象に富士山で開催し、登山や清掃活動を行い、世界遺産登録によって引き起こされる問題や課題について学びました。2014年2月には、「富士山の日フォーラム2014」に環境学校を体験した学生7人が環境メッセンジャーとして参加。環境活動を次世代に引き継いでいくためには何が必要なのかをテーマにディスカッションを行いました。



山頂はもうすぐ

日本：種まき塾 有限責任事業組合 富良野種まき塾

北海道の植生に合った苗木を育て、9,557本の苗木を道内での
植林に提供しました。577人のココロにエコの種を蒔きました。

樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながると考え、赤エゾマツやミズナラなどを育成しています。2013年度は9,557本の苗木を提供しました。育苗や種まき体験には延べ577人が参加しました。畑に種を蒔き、体験参加者の心にもエコの種を蒔くということで、「ココロと大地にタネを蒔く」を合言葉に活動しています。



育成中の赤エゾマツ

日本：どんぐりの森 里山再生 NPO法人 森のライフスタイル研究所

山火事跡に3,200本の苗木を植林しました。子どもたちと
昆虫採集をして生きものが戻ってきたことを確認しました。

山火事跡から、生態系の調査をしなが、ボランティアの手で里山の復興をめざすプロジェクトです。6月にどんぐりがなるコナラを約3,100本、ヤマモミジを約100本、1ヘクタールの里山に植林しました。8月には草刈りも実施し、さらに生物多様性調査もしました。また、地元の子もたちと昼は昆虫採集、夜はライトトラップに集まる昆虫を観察し、トンボやチョウをはじめ、多くの昆虫が戻ってきていることを確認することができました。



2011年に保育園の園庭に植えられたどんぐりから育った苗木

日本：ピオトープ浮島 水辺の生態系回復 NPO法人 とよあしはら

ピオトープ浮島を13基つくり、川や池に設置しました。
植物が茂って水辺の生きものすみかになっています。

水質汚濁が進む川の downstream や湖沼に、ピオトープとなる浮島を設置することで、水質浄化と水辺の生態系の回復をめざす活動です。間伐材や竹材、炭などで作った浮島には植物が茂り、水質が浄化され、多くの生きものが集まっています。プロジェクト最終年となった2013年度は、大学と協働して運営に参加してもらうなど、将来につながるような次世代の育成に努めました。活動初年度の2011年に設置した浮島には、すでにたくさんの草が生え、生きものが集まっています。



東京都上野恩賜公園「不忍池」の浮島

日本：ムササビとともに暮らす里山再生 NPO法人 都留環境フォーラム

野生動物のエサとなる大きな広葉樹を植林しました。
これからは森を育てる整備と観察をつづけます。

富士山の北東で野生動物が暮らす里山をつくるプロジェクトです。2013年度も、実をつける大きな広葉樹を植えました。森は現在、植林を終えて育てる段階に入っています。今後は森林整備と観察を継続していきます。また、森林整備で切り落とした枝などは、木質バイオマスペレットとして活用するため、山梨県森林総合研究所と共同研究を行っています。



樹高5メートルはある木を植える

日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人 NPO法人 森は海の恋人

気仙沼で自然体験合宿を3回開催し、35人の子どもたちが
山と海で全身を動かして遊び、学びました。

震災の被災地では子どもの遊び場が減り、自然離れが深刻です。一方で自然体験学習は求められており、安全なフィールドの確保や運営のノウハウが必要となっています。2013年度は春と冬にフィールド調査を行い、放射線測定や避難ルートの確認、他団体と意見交換するネットワークを構築しました。7月・8月・10月に計3回開催した自然体験合宿では、計35人の子どもが集まり、牡蠣の養殖いかだに集まる生物の観察や魚釣り、カヤック体験、ツリクライミングなど、全身を動かしながら、海の生きものと森の関係を学びました。



自分たちで釣った魚をつみれ汁に

NPO法人 森は海の恋人 代表にきく 気仙沼の今、自然と子どもたち



NPO法人 森は海の恋人 理事長
島山 重篤氏

気仙沼湾を取り囲む森の緑が濃さを増し、水温が上昇してくると、海の生きものがどっと増えてきます。馬尾藻(ホンダワラ)の林には数えきれないほどのキヌバリの稚魚が棲みつき、その間をぬって大型のウミタナゴが美しい姿を披露してくれています。棧橋に特別に作られた「のぞき穴」から、体験学習にやってきた子どもたちが魚を観察し歓声が湧き上がります。それは設備の整った水族館では聞くことのできない歓声です。本来の自然に勝る教師はいないことを実感させられます。東日本大震災から3年が経過し、住宅再建や産業復興まではまだまだ時間が掛かりますが、いち早く復興した「自然のつながり」を、より多くの人々と分かち合えればと思います。海も山も明るくなる季節です。皆様もぜひ気仙沼に足をお運びください。

エコツアーだより

2013年度は「どんぐりの森 里山再生」(NPO法人 森のライフスタイル研究所)、「ムササビとともに暮らす里山再生」(NPO法人 都留環境フォーラム)、「ビオトープ浮島 水辺の生態系回復」(NPO法人 とよあしはら)の3プロジェクトでエコカード会員向けエコツアーを開催しました。また、「南太平洋諸国生態系保全」(南太平洋生態系保全学術懇談会)の成果発表会も実施しました。

「どんぐりの森 里山再生」

- ・2013年6月1日(土)
- ・長野県東御市
- ・エコカード会員とご家族6人

東京からのバスの中で、信州大学農学部 中村寛志教授から生物多様性についてのお話をうかがいながら活動場所へ向かいました。到着後はこれまでの活動で植樹した場所で、中村教授と信州大学山岳科学研究所 江田慧子助教の解説で生物多様性の観察をしました。チョウやカエル、クモなどの生きものやたくさん植物を観察することができ、山火から植樹活動を経て、生物多様性が戻りつつあることを確認しました。

植樹作業は、サクラとコナラを約1,000本、上小森林組合の皆さまや地域住民の皆さまに指導していただきながら行いました。



「ムササビとともに暮らす里山再生」

- ・2013年10月5日(土)
- ・山梨県都留市
- ・エコカード会員とご家族15人

はじめにプロジェクトの概要や、活動している森の生きものや樹木の様子、夜の姿などの説明を受け、森にすむ生きものの生活を想像し、森と生物多様性について考えました。そして森にすむ生きものや食べ物となる実なる木を植樹しました。植樹作業終了後は「都留環境フォーラム」のメンバーと一緒に森を散策し、活動の最後に、今回植樹した木が今後どのように生態系に取り込まれていくのかを各班で考え、お互いに発表しました。



「ビオトープ浮島 水辺の生態系回復」

- ・2013年11月2日(土)
- ・埼玉県越谷市
- ・エコカード会員とご家族6人

埼玉県越谷レイクタウンで開催された「エコウィーク」のイベントとして開催しました。エコカード会員だけでなく、獨協大学の学生もスタッフとして参加し、次世代育成にもつながりました。開会式では「とよあしはら」の山本裕隆氏より、ビオトープを浮かべることによって水質が改善され、それ自体が魚や鳥のすみ処となること、間伐材でつくること山の整備の手助けにもなることを学びました。浮島は、竹を組んだいかにヤシの繊維で編んだ袋に木炭と浮島に茂る緑のもととなる葦などの植物の根を入れたものをのせ、固定してできあがりです。1日で4基の浮島をつくりあげました。



「南太平洋諸国生態系保全」

- ・2014年2月8日(土)
- ・明治大学駿河台キャンパス紫紺館
- ・参加人数 約40人

当日は同地域に関心の深い約40人の参加者が集まりました。ゲストとしてフィジー共和国のマイトガ・イシケリ駐日全権大使、同コロボウ・ジュリア参事官、日本パプアニューギニア協会の山下勝男会長をお迎えし、フィジーやパプアニューギニアなど南太平洋諸国がかかえる現状の課題や今後の可能性を発表し、情報の共有を図りました。



2014年度エコツアー 参加者募集のお知らせ

詳しい資料・申込書はアンケートからご請求いただけます。ホームページからも詳しい資料のご確認とお申し込みをいただけます。
<http://www.cosmool.co.jp/eco-tour/>

※下記エコツアーは予定のため、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。申込書による締め切り日は消印有効です。

「人と森をつなぐ」エコツアー
一般財団法人 C.W.ニコル・アフンの森財団

開催日 2014年9月7日(日) 日帰り
タイムスケジュール

9:00 長野駅集合・出発(バス)→アフンの森(黒姫)へ
10:00 アフンセンター到着
●ニコル理事長のミニ講演
●アフンの森散策

12:00 森で昼食
13:00 午後の活動
●五感で感じるアフンの森
●アフンの森の作り方とは

17:00 アフンの森発、帰路へ
18:00 長野駅後、解散

申込・お問い合わせ
ホームページまたは下記連絡先まで
近畿日本ツーリスト(株)
トラベルサービスセンター東日本
コスモ石油エコカード基金係
0570-064-205
(受付時間:平日10時~17時)

申込締め切り 8月18日(月)

プロジェクト担当者より
森の中で過ごす... 森の音を聞き、森の恵みを味わう。生命力あふれる森の手カラを少しだけ分けてもらって、心も体もリフレッシュさせませんか。

「アカマツの森 里山再生」エコツアー
NPO法人 森のライフスタイル研究所

開催日 2014年10月4日(土)~5日(日) 2泊2日
タイムスケジュール

10月4日(土)
9:00 アカマツの森で活動
●作業手順の確認
●森林学習
●アカマツ林内の落ち葉掻きや除伐など

10月5日(日)
9:00 菌根菌調査(きのこ類の収穫も)
11:00 昼食
(収穫したもの食べられるかも)
13:00 「分杭(ぶんぐい)峠」見学
●宿に戻って入浴も可能
18:00 東京着、解散

申込締め切り 9月8日(月)
※名古屋発着も若干名募集する予定です。

プロジェクト担当者より
アカマツ林に人の手を加え続け、元の元気ある里山に戻しています。今回のエコツアーでは、これまでの手入れ不足が原因で溜まってしまった柴を専用の熊手などを使いながら除去しつつ、春から整備してきたエリアでの菌根菌調査(きのこ類の採集含む)を体験します。



「ムササビとともに暮らす里山再生」エコツアー
NPO法人 都留環境フォーラム

開催日 2014年11月15日(土) 日帰り
タイムスケジュール

9:00 東京発(バス)→山梨県都留市コスモの森へ
12:00 森の中で昼食
13:00 活動開始
●前回までに植樹した樹木の観察や生きものの痕跡探し
●チームごとに実なる木を植樹
●森全体の観察とふりかえり

16:00 コスモの森発、帰路へ
19:00 東京着、解散

申込締め切り 10月14日(火)
プロジェクト担当者より
これまでムササビの生息域の回復をめざし、針葉樹の森を整備して実なる木を植樹してきました。これらの木々は植樹した後、森にすむ生きものに食料として使われているのでしょうか?この活動では、植樹した木の様子を観察し、そこを訪れる生きものを探します。また、自分自身も植樹することで、森づくりに関わりを持つことができます。

TOPICS

日本最大の環境展示会「エコプロダクツ2013」に出展しました!

2013年12月12・13・14日に開催されたエコプロダクツ2013では、エコカード基金のプロジェクトを題材に「飛び出す環境絵本」[カウントダウンクイズ]、プロジェクト代表者などが実際の活動の様子を語る講演会など、子どもから大人まで楽しんで学べる内容でとても好評でした。引き続き「エコプロダクツ2014」にも出展予定です。



プロジェクトパートナー同士の親睦を深める「パートナー集会」を開催しました

- 2013年9月17日(火)
- コスモ石油本社 会議室

エコカード基金事務局では、エコカード基金で活動することをひとつの「線」と考え、プロジェクトパートナー同士の親睦を深め、各パートナーが情報交換を行うことでより有意義な活動展開ができるよう、「エコカード基金パートナー集会」を開催しました。「シルクロード緑化」プロジェクト NPO法人2050の北谷勝秀氏、「森は海の恋人」プロジェクト NPO法人 森は海の恋人の畠山重篤氏、畠山信氏が活動事例の報告をしました。さらに、プロジェクトを達成させるための会計の大切さをエコカード基金担当公認会計士の加藤俊也氏から学びました。プロジェクトと事務局、プロジェクト同士のつながりが強化され、エコカード基金の活動がさらに発展していくよう、今後も継続させていただきます。



アンケートに寄せられたご意見

毎年の報告書でアンケートを実施しています。いただいたご意見は今後のエコカード基金活動の参考にさせていただきます。今回は、2013年報告書のアンケートでご記入いただいた多くのメッセージの一部をご紹介します。また、昨年「どのプロジェクトに関心がありますか? (3つまで)」という質問への回答で最も皆様の関心を集めたのは、「東日本大震災復興支援 森は海の恋人(宮城県)」でした。

自由記入欄にご記入いただいたメッセージ



エコカード基金活動報告書2014 アンケートプレゼントの紹介

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で40名様に、プロジェクトにまつわる品物をプレゼントします。今回は「ムササビとともに暮らす里山再生」のパートナー、NPO法人 都留環境フォーラムが栽培期間無農薬・無化学肥料で栽培した米や小麦を使ったみそや麺のセットです。(11月頃発送予定。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)



セット内容
みそ1kg、玄米3×2袋、こむぎ麺(太麺)200g
みそ:大豆(山梨県都留市産)、塩(国産) / 玄米(山梨県都留市産)
こむぎ麺:小麦(山梨県都留市産)、塩(国産)

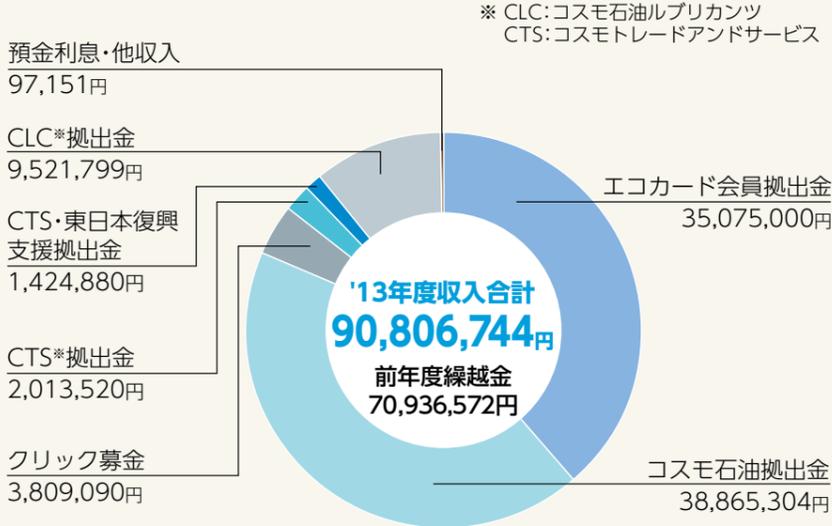
下記のアレルギー物質を含む原材料を使用しています。
みそ:大豆 こむぎ麺:小麦

2014年報告書アンケートはホームページからもご回答いただけます。
<http://www.cosmool.co.jp/question/>



収支報告

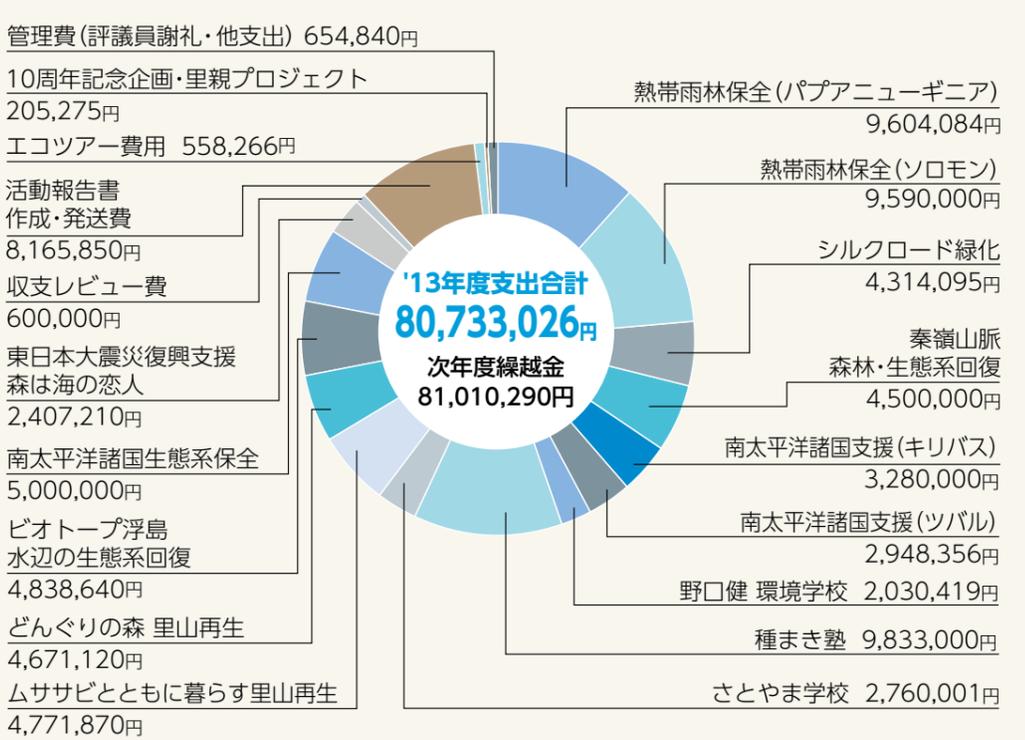
【収入合計】



●補足説明

2013年度はエコカード会員の減少やクリック募金の減少などにより、収入が9,080万円となりました。支出はプロジェクト内の計画未実施や活動報告書作成・発送費減などにより8,073万円となりました。収支レビュー費は今回から当年度に支払うこととしたため、2012年度・2013年度の2年分を支払いました。

【支出合計】



【資産規模と会員数の推移】



●補足説明

会員数については、ガソリン需要減による脱会はあるものの、会員数維持のための施策を検討・実施することで、現状維持をめざします。

収支計算書に対する独立した公認会計士のレビュー報告書(抜粋)

私は、コスモ石油エコカード基金の委嘱に基づき、同基金の2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の収支計算書についてレビューを行った。この収支計算書の作成責任は基金の代表者にあり、私の責任は、独立の立場から実施したレビューに基づき収支計算書に対する結論を表明することにある。日本公認会計士協会監査・保証実務委員会研究報告第20号「公認会計士等が行う保証業務等に関する研究報告」に準拠してレビューを行った。その結果、上記の収支計算書が、我が国において一般に公正妥当と考えられる収支計算の基準に準拠して、基金の収支の状況を適正に表示していないと認められる事項は、すべての重要な点において発見されなかった。

2014年4月11日 公認会計士 加藤 俊也

コスモ・ザ・カードのご紹介

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、「地球のために何かしたい」という思いを実現するためのカードです。会員向けエコツアーも毎年実施中!

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、お客さまから毎年お預かりしている500円とコスモ石油グループからの寄付金を、環境保全活動を行うNPOなどに寄付することなどで、その活動をサポートしていきます。



コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」

コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」
コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
会員の皆さまからの寄付



コスモ石油
グループの寄付

地球環境保全をサポートする
「ずっと地球で暮らそう。」
プロジェクトを運営

入会后、および次年度以降の入会月に500円の寄付をお預かりします

コスモ石油ルブリカンツ株式会社

DPFの性能向上、燃費向上につながる
環境対応ディーゼルエンジンオイル

コスモECOディーゼルシリーズ

大気汚染物質低減のため、DPF装着車が普及していますが、従来のディーゼルエンジン油では目詰まりを起こしやすく、触媒の性能を低下させるという問題がありました。コスモECOディーゼルシリーズは、この問題を起こす成分を削減し、さらにエンジンの長寿命化・省燃費化に貢献します。この製品の売上の一部がコスモ石油エコカード基金に寄付されています。2013年度は、9,521,799円が拠出されました。



<http://www.cosmo-lube.co.jp/lub/lubproduct10.html>

株式会社コスモトレードアンドサービス

CO₂排出量削減・燃費向上につながる
環境配慮型バッテリー

コスモECO.R

充電制御システム搭載車対応で、充電受入性が高く、充電制御システム搭載車に搭載した場合、バッテリー充電のためにオルタネータ(自動車の発電機)を動かす燃料を節約できるため、CO₂排出量削減・燃費向上に貢献します。この製品の売上の一部がコスモ石油エコカード基金に寄付されています。2013年度は、2,013,520円が拠出されました。



<http://www.cosmo-trade.com/goods/carcare/ecor.html>

コスモ石油のカードに関するお問い合わせ先

コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」

0120-987-622

携帯電話専用 03-4330-1660

月～土曜・祝日 / 9:15～17:30

日曜日 / 10:00～17:30

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」

北日本 022-771-1500

東京 043-296-6200

中部 059-353-2100

大阪 06-4863-0100

年中無休 9:00～21:00

